

2023年度事業計画

保育園こども園が健全に運営できるのか、改めて精査して参ります。

園長会の機能を大きく3つに分けます。

- ① 行政との連携
- ② 保育の質向上
- ③ 他団体/教育機関との連携

①行政との連携

ア)保育士確保

離職率10%という福祉業として成り立たない状況から抜け出す為には、保育のイメージアップが重要です。専門業者と積極的な関わりを持ち、ノウハウをお借りして、保育士確保を行ってまいります。

協力予定

デザインプロダクション関連会社、マーケティング支援事業者

イ)不適切保育を起こさない

不適切保育はあってはなりません。反面、保育を萎縮させてもいけません。「、、、をやってはいけない」ではなく、どのような時に保護者を心配させてしまうかを伝えてまいります。一方で、保育士を守るために開設した「守ろう保育園こども園！相談窓口」を更に利用しやすいものにして参ります。

ウ)一時保育

一時保育に関しては、時間単位で利用できる保護者のニーズに応えられるシステムが確立できる園、保育教育の一貫性から時間単位では対応が難しい園があることから、一律ではなくそれぞれの園の特色を踏まえて対応できるよう市と協議を重ねて参ります。

エ)その他

園長会研修、キャリアアップ研修、永年勤続優良職員表彰、新任職員歓迎会など、行政との連携を深めて参ります。

②保育の質向上

ア)非認知能力

遊びから「どうして？」の探究心を高められるのか、非認知能力を理解するために研修の機会を増やして参ります。

イ)保護者支援

乳児保育幼児教育の定義を再考し、保護者が理解出来る時代に合った保育教育を提供出来るように研修を重ねます。

ウ)業務の整理

保育園こども園が「できること・できないこと」を明確にし「できること」を保育士がより深く学んでいく機会を増やします。

エ)学習

児童の「数的思考」に対する概念は、ここ数年で大きく変化しています。それは、電子マネーの発達により数の把握を毎行わなくても済む環境が理由です。さまざまな提案をいたします。

③他団体、保育教育機関との連携

地域子育て支援が叫ばれている中で、保育園こども園だけで全てを担う事は、現実的ではありません。子どもの発達が多様化する中で、それぞれの成長をサポートする団体が多数生まれていますので、他団体との連携を強化し、柔軟に子育てをサポートできるよう取り計らって参ります。また、接続カリキュラムを具体化、明確にする事で、幼保小の連携も更に強化出来ると考えています。